



とうきょう すくわく プログラム

こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

ってなに?



「とうきょう すくわくプログラム」は、幼稚園や保育所において、
子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、
学べるよう応援する取り組みです。

取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった
豊かな心の育ちをサポートしていきます。



夢中になって遊び学ぶ

すく
すく

すべての乳幼児の

伸びる・育つ

×

わく
わく

好奇心・探究心

を応援する幼保共通のプログラム

楽しく、みんな一緒に!



とうきょう すくわくプログラム

はこちらからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。



「非認知能力」の育成等、 乳幼児の成長・発達をサポート



好奇心を持つ
きっかけを増やす

考えを広げる

考えを深める

すくわくプログラムはどんなことをするの？

安全安心な環境のもと、子供たちが興味・関心を深められそうなテーマを園で設定し、好奇心を持つきっかけを増やしたり、考えを広げ、深めたりする取り組みを行います。

テーマに関する子供たちの
考えやイメージを
引き出すための問いを考え、
素材や道具を準備し活動を行います。

テーマ例： 光 色 自然 音 泥遊び 絵本 など

例
〇〇って
なあに？

楽器を使い
音の振動を
感じるなど

例：音をテーマとした活動の様子

豊かな心の育ちを応援

乳幼児期は、
「非認知能力」を培う
大切な時

非認知能力とは

自己 にかかわる
心の力

- ・自尊心
- ・自己肯定感
- ・意欲
- ・粘り強さ

社会性 にかかわる
心の力

- ・心の理解能力
- ・共感
- ・思いやり
- ・協同性

施設名	明日葉保育園塚園
施設所在地	東京都港区三田3丁目5番地19号住友不動産三田ガーデンタワー3階
法人名	株式会社あしたばマインド

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ゆれる

<テーマの設定理由>

クラス内に差し込む光に気が付き、影が差し込むと光が消えることを不思議に感じた子ども達。そこから『揺れる』というテーマを設け活動を始めた。

2. 活動スケジュール

6月から2月までとし、3月はまとめと振り返りを行なった。
基本的には日々の保育の中で、子ども達の様子や姿などを元に、仕掛けを作ったり、気づけるような仕組みを作りつつ繋げていった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・風船・布製の天蓋・シャボン玉・新聞紙、オーガンジー、落ち葉など
※室内の天井に薄い布製の天蓋を吊り下げ、天蓋の上に落ち葉を散りばめたり、室内の上部に紐を張り、風船を子ども達が手の届く場所にぶら下げ、実際に触れ、揺らすということが経験できるようにした。オーガンジーを用いてユラユラ揺らして見せる

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

クラス内に差し込む光に気が付き、影が差し込むと光が消えることを不思議に感じた子ども達。そこから『揺れる』というテーマを設け活動を始めた。
そこから室内に風船を吊るして揺れる風船に触れてみたり、運動会では絵本の内容に掲載されていた果物をぶら下げて好きなものを取る競技を行なった。その後、新聞紙をちぎることが出来るようになった子ども達。戸外では落ち葉を拾い上から降らせるという遊びを楽しんでいた。そこで室内に天蓋を設置し、その上に落ち葉を置いて天蓋と一緒に揺れる落ち葉を眺めていた。また園庭に出た際はシャボン玉が揺れているのを追いかけるという姿も見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

その時々様子を拾い、また活動の中で繋げていった。大好きな絵本などを繰り返し読むようにすると、関連している活動中に絵本を持って保育士にアピールする姿もあった。
また環境設定でも、子ども達が目につきやすい場所や触れやすい場所などに設置したり、関心が持てるように絵本などを用いて活動を広げていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

0歳児の探究活動はなかなか難しいものがあった。
大人が主導になりがちだが、子ども一人ひとりが気づけるような環境を整え、声掛けをすることができた。

施設名	明日葉保育園塚園
施設所在地	東京都港区三田3丁目5番地19号住友不動産三田ガーデンタワー3階
法人名	株式会社あしたばマインド

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

日々の生活の中で、衛生面でも手洗いを行なうが、室内のままごと遊びの延長でリアルに水を使い遊ぶ姿が見られた。
1歳児では毎年、見られる姿なので、水の不思議さを通して大切さも伝えたいと思った。

2. 活動スケジュール

6月から3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ままごとの道具（鍋やコップ）
- ・園庭で使用するままごと用のキッチンコンロ
- ・栽培用のジョウロ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

遊びながら水に触れていくうちに、濡れることや汚れなど苦手な子も無理なく積極的に遊べるようになった。また野菜の栽培を通じて、水の大切さに触れることもでき、室内での水道の使い方も上手になってきた。運動会では『海』をテーマに海に潜り魚を取り、お寿司になるという競技を保護者と行なった。冬になり、容器に入れた水を保育者が子どもた日に見せ、仕掛けを作り、翌日には氷が出来ていることに不思議な様子が見られた。またその氷が解け、水になる様子をじっくり見ている子もいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

水道での手洗いから、ままごとの道具を持ち出し、リアルにお料理ごっこを始めていた。またお水を氷にする時、氷に触れて水になった時など『冷たいね』『無くなっちゃたね』など不思議がる様子が見られた。
水に触れるのが苦手な子も、他児が楽しそうに遊んでいるのを見て、自分もやってみようかなという姿があり『楽しそうだね、一緒にやってみる？』と誘うと次第に興味を示し水に触れることに抵抗がなくなった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水に触れる機会は1歳児には必要で、指先から伝わる感触は身近で親しみやすい物なんだろうなと感じた。

保育者のかかわりで、水に抵抗がなくなった子もいて、また興味や関心を示す子が増えた。日常の身近にある素材で親しみやすかった。

施設名	明日葉保育園塚園
施設所在地	東京都港区三田3丁目5番地19号住友不動産三田ガーデンタワー3階
法人名	株式会社あしたばマインド

1. 活動のテーマ

<テーマ>

風

<テーマの設定理由>

年長児の影響を受け、画用紙や折り紙などを室内に持ち込み絵を描くようになった。そして一人の子が『紙飛行機を作って！』というリクエストをしてきた。そして完成した紙飛行機を飛ばしていくうちに、うまく飛ばせるようになった。ある風が強い日に紙飛行機を飛ばしてみるとうまく飛ばなくなった。そこで今までうまく飛ばすことが出来ていたのに、なぜ飛ばなくなったのかと不思議にしていた。そこで保育者が風の存在について伝えた。

2. 活動スケジュール

6月から3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・折り紙、色画用紙・扇風機・シャボン玉・空気清浄機・紙テープ・ストロー・落ち葉

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

扇風機に紙テープを付けて知らせてみたり、空気清浄機から出る場所にも紙テープを付けてみる。すると扇風機に向かって紙飛行機を投げたりする姿や空気清浄機の吹き出し口に風船を乗せてみる子も出てきた。そこから次に戸外に出た時にシャボン玉が風に流されている様子、それを追いかけて、自分たちでストローの先に液を付けシャボン玉を膨らますことも行なうようになった。また冬の戸外活動では、落ち葉が風に流される様子を見て追いかけてみたり、その落ち葉を拾い集め、室内のいたるところに貼り付けるような活動も行なった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・紙飛行機がうまく折ることが出来ず、年長児に紙飛行機を折ってもらう。
・1歳児の時から経験のあった、空気清浄機の上に風船を置くと風で持ち上がり一定の高さでとどまる様子を知っており、その様子を保育者や友達に『みてみて！』と一緒に不思議がる様子が見られた。また空気清浄機の前面に風向口を見つけた子は、前面に風船を置き転がる様子を観察。上部の風向口を塞ぐと風の勢いが増すことに気づき、置いては転がし、転がしてはまた元の位置に戻すなど繰り返していた。その様子を見た保育者が風向口に紙テープを貼り『こうすると風が見えるかもね』と伝えると勢いがあるときは強くなびき、弱い時はあまりなびかないことを知ることが出来た。その後、戸外でシャボン玉遊びをしている時に、ゆらゆら揺れるシャボン玉を追いかけた入り、風に乗り勢いよく飛んでいきシャボン玉の様子を見て風の強弱に気づく場面もあった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・目に見えないものを不思議がる様子は可愛かった。
- ・紙飛行機の制作では、年長児とのかわりがあり優しく接してもらったことで、自分たちが年下に接する姿に繋がっていくように感じた。
- ・空気清浄機で風船を使った遊びは、1歳児クラスからの経験だったので、今後3歳児になっても続けていけるようになるように思った。
- ・紙テープを扇風機や空気清浄機の付けるのは、風の流れを可視化しやすく良かったと思う。

施設名	明日葉保育園塚園
施設所在地	東京都港区三田3丁目5番地19号住友不動産三田ガーデンタワー3階
法人名	株式会社あしたばマインド

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

・夏祭りの制作でかき氷づくりを行なった際、シロップの代わりに色水を使ったことがきっかけになり、混ざり合った色の不思議に気が付いた子ども達

2. 活動スケジュール

6月から3月までの間

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・絵の具・筆・パケツ・制作用の布・紙コップ・画用紙・画用紙を乾かす棚
・戸外用色水遊び用の制作台

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・夏祭りの制作でかき氷づくりを行なった際、シロップの代わりに色水を使ったことがきっかけになり、混ざり合った色の不思議に気が付いた子ども達。またやぐらの周りを紅白幕で飾ろうということで布に絵の具を塗る作業を行なうことで絵の具の濃淡の違いを感じ、濃いと絵の具が伸びず、薄いと滲んでしまうなどを経験し、塗る素材によっても感触が違うことに気が付き、筆で塗るのが難しいなら一層のこと手や足に絵の具を付け感触を楽しみつつ絵の具に触れて過ごしていた。そこで素材を変え、弾き絵なるものを取り入れ、クレヨンで書いたものの上に絵の具を塗るとはじく様子が更に驚き、考えるようになった。

また紙の上に色水の水滴をたらしストローで吹く吹き絵や、テカルコマニーでは左右対称の模様を楽しんだり、予想もしない模様を楽しむ様子が見られた。

紙粘土に絵の具を混ぜ込みながらの制作では絵の具を練り込む作業での感触を楽しんだり、マーブル模様や混ざり合った色、出来上がった色の不思議を楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・かき氷づくりでは、綿に色水を垂らし、色を付ける作業を行なったが、色が混ざる様子を見て『色が変わった』『虹みたい』『本物のかき氷みたい』など不思議な現象に夢中になり、製作が終わった後も取り組む様子が見られた。

・布に絵の具を使っての紅白幕の制作では、赤の絵の具だけで取り組んだが、絵の具の濃さで布に絵の具が伸びなかったり滲んだりする様子を経験し、保育者が『どうしたらいいかな・・・』など投げかけることで、自分たちで水を足してみたり濃さを調整する様子なども見られた。

・園庭では、水遊びがてら『園庭で色水で遊んでみる?』という保育者の投げかけに大喜びし、自分たちでビニール袋や絵の具を用意していた。そして園庭に出るとビニール袋に色水を作って混ぜ合わせてみたり、容器を棚の上に並べ、夏祭りに経験したかき氷屋さんごっこを始める子ども達もいた。またビニール袋に土を入れ、泥水を作ったり、そこに絵具を混ぜ色の変化を楽しむ様子が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子ども達の主体性を引き出しながら、行事への関わり、制作がなかなか難しかった。しかし好奇心が旺盛で、自分たちから変化に気づき喜ぶ姿は次につなげるきっかけになった。

・絵の具の濃淡に関しては、その様子を見ていた4歳児のアドバイスを受けたことが有難かった。

探求心を引き出すということは、大人も子どもも好奇心を持つことが大事だと感じた。

施設名	明日葉保育園塚園
施設所在地	東京都港区三田3丁目5番地19号住友不動産三田ガーデンタワー3階
法人名	株式会社あしたばマインド

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

初めて絵の具遊びをした日、片づけをしている水道で筆などを洗い流している時に、混ざり合い変化する色水に目を輝かせていた。その様子を見てテーマを『色』に決めた。

2. 活動スケジュール

6月から3月までの間で、日頃の活動の中の時間

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・絵の具・筆・バケツ・画用紙・園庭でのテーブル・画用紙を乾かすための棚・絵の具などの活動がすぐ取り組めるようにするための棚、カラーセロハン・冷蔵庫・製氷皿・ビニール袋・水性ペン、クレヨン・毛糸

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

・夏に水遊びが始まった時には、色水で氷を作ってみるなど行ない、その氷を水遊びの時に混ぜて遊ぶ姿が見られた。また少しずつ溶けていく氷の様子も観察したり、変化を楽しむ姿が増えた。そんな中、手や服が汚れてしまっても消極的だった子どもも徐々に大胆に遊べるようになった。

色の濃淡にも気が付いた。

そこで薄めの水で弾き絵を行なってみて、なぜ弾くのか、濃い色だとなぜ弾かないのかなど試行錯誤を繰り返す様子もあった。

後半になると節分などのお面の制作で、目の部分をセロファンにして自分なりの色のアイマスクを作成した。また髪の毛の部分では、自分たちでお買い物に行き、色つきの毛糸を買ってきて、他児の買ってきた色の毛糸と混ぜてみるなどの姿もあった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

毎年、水遊びの中で色水で作った氷のことを思い出した子ども達。一人の子が『氷を作ろうよ』と提案。今までの経験からイメージが沸き、ままごとの道具の中から様々な器に自分たちで作った色水を冷凍庫に入れた。水遊びの中では、溶けていく色のついた氷の様子を見たり、他児と協力し合い『混ぜてみようよ』と器の中で混ぜて違う色になる様子も観察していた。

お面作りでは『そんなお面にする?』と保育者が投げかけると、『自分だけのお面を作りたい』といい『毛糸で黒い髪の毛のお面ではなく、カラフルな色のついた髪の毛のお面にしたい』という意見も出た。またお面を付けた時に、前が見えるように四角く大きな穴をあけると『サングラスみたいになりたい』という意見が出て、カラーセロハンを用意すると、自分たちで選び制作に取り組んでいた。

余った色つきの毛糸をいつでも遊びの中で使用できるようにしていると、オリジナルの髪飾りを作る姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・水遊びの中では、いろんな色を混ぜ『なぜこの色になるんだろう』『きつとこの色になるね』など絵本で読み学んだ混ぜ合わせの実験をする子ども多くみられ、楽しむ姿があり、発見につながったと感じる。
- ・日々の保育の中で、素材を自由に使えるようにしておくと、自分たちで興味や関心を自然に広げられることもでき、それを保育者が見逃さず他児にも提案することで探求の活動を広げられると感じた。

施設名	明日葉保育園塚園
施設所在地	東京都港区三田3丁目5番地19号住友不動産三田ガーデンタワー3階
法人名	株式会社あしたばマインド

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

5月に鯉のぼりの共同制作を行なった時、布に塗る絵の具をいつも自分たちが使っている絵の具と違うこと、感触が違うことに気づいた。

2. 活動スケジュール

6月から3月までの日々の保育の中

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・絵の具・布用の絵の具・筆・バケツ・制作用の布・制作用のTシャツ・クレヨン・おろし金・IHコンロ・鉛筆・色鉛筆・画用紙・色画用紙・画用紙を乾かす棚・収納棚・電子黒板・鉛筆の工場見学

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

5月に鯉のぼりの共同制作を行なった時、布に塗る絵の具をいつも自分たちが使っている絵の具が違うこと、感触が違うことに気づいた。また絵の具が混ざる様子も違うことに気づき、身近にあるクレヨンや絵の具は何で出来ているのか関心を寄せていた。ある日、クレヨンが何で出来ているのか、という疑問から探究活動が始まった。まず短くなったクレヨンをおろし金で擦りおろし細かくして、粘土のように練ってみたりしたが固まらなかった。保育者の助言で、IHヒーターや電子レンジで温めたところ液体になる様子を電子黒板で観察し、その後冷えると固まる様子も観察した。そこから短い同じ色のクレヨンを集め、粉にして温めて液体にし、そして1本のクレヨンを作ってみた。また違う色を混ぜ合わせオリジナルのクレヨンも作ってみた。そこから『クレヨンでどんなふうに作られているのか』という疑問からクレヨンの工場見学に行きたいということになった。しかしクレヨンの工場見学は小学生以上でないといけないと言われてもらえなかった。そこで色鉛筆はどうやって作られているのかも知りたいということで、鉛筆工場の見学に行くことになった。そして工場見学では、鉛筆が出来るまでの工程や鉛筆が出来るときに出る木くずの粘土。また普通の鉛筆は六角なのに、色鉛筆は丸いことなど、実際に目で見て、耳で聞いて、触って知ることが出来た。また木くずで出来ている粘土でオリジナルのキーホルダーを作ったり、短くなった鉛筆を供養してくれる神社があることも知ることが出来た。

年長児なので今年度で活動は終わってしまうが、卒園制作として、その木くずの粘土を使い形を作った後に色付けを行なう制作をする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

『布用の絵の具と普通の絵の具って何が違うの?』という鯉のぼり制作をしている中で子ども達の声から『じゃあクレヨンは何で出来てるの?』『色鉛筆は?』など色について、また素材についての『なぜ』が広がってきた。クレヨンを粉状にして触れてみると『ネトネトする』という声が多く、『じゃあこれを溶かしてみようか』と保育者は投げかけ、やけどをしないように子ども達は椅子に座り、電子黒板のモニターを眺めIHコンロの上で溶けていくクレヨンの様子を観察した。またその後徐々に固まり、また描ける大きくなった。その様子を見ながら、『色鉛筆の芯は?』『絵の具は固まらないの?』など興味や関心が広がっていった。

鉛筆の工場見学では、普通の鉛筆と色鉛筆の違いについて教わった。鉛筆の芯は熱を加えて硬くしていること。色鉛筆は普通の芯より柔らかくできていることなどの違いで、鉛筆は六角形だが色鉛筆は圧力を均一に掛けるため丸いということも教わった。また鉛筆が出来る際に削られた木くずで作られた粘土があることも知り、その粘土は乾燥すると木製の製品になることを知り、オリジナルのキーホルダーを作るということも体験した。そのオリジナルのキーホルダーは乾燥すると色を付けることも出来、マジックや絵の具などを使って完成させ



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・他のクラスとテーマがかぶってしまったが、一步上を行く年長児らしい探究活動が出来たように思う。ただこれで卒園してしまうので、今後継続的な探求は難しいが、幼保小の接続の際にお伝えできればと思う。